F1 フルーツパプリカ

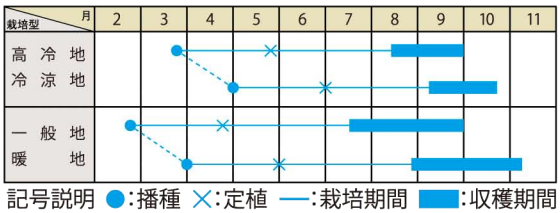
ぱぷ丸

レッド
イエロー
オレンジ

特徴

○果重約 30g ～ 60g 程度、果長 6cm ～ 8cm、直径 4cm 前後のミニパプリカ。
○一般的なベル型パプリカと比べて収穫までの日数が短い（開花後 45-50 日）極早生品種。
○完熟果は甘みが強く生食利用も可能。
○果実サイズが小さいため、連続着果による樹勢の低下が生じず多収が見込める。
○種が少なく、ヘタも小さいので調理も容易。

■栽培適期表



記号説明 ●:播種 ×:定植 ―:栽培期間 ■:収穫期間

栽培方法

〈種まき・育苗〉

高温を好み、発芽適温は 30℃程度。発芽後は日中の気温 25℃、地温は 25℃程度で管理する。育苗温度も最低温度で 20 度を下回らないような管理が必要。地温は 20 ～ 25℃が適温となり、早春の育苗環境では加温設備の設置が望ましい。発芽後は本葉 2 枚程度のときに鉢上げし、鉢上げ直後は活着を促すため、地温管理はやや高めの 28℃としながら、活着後は徐々に温度を下げ、育苗後半（播種後 30 ～ 40 日程度）には 20℃まで下げていく。育苗中の日照不足は徒長を生じやすく、初期着果節位が高くなり収穫が遅れるため、育苗中は温度確保を目的とした多重被覆による日照不足にも注意する。

春植え温度管理理想目安	生育ステージ	発芽	育苗前半	育苗後半	定植後 1 週間
	最高気温	30℃	25℃	25℃	25℃
	最低気温	28℃	20℃	17℃	15℃
	地温	30℃	25℃	20℃	20℃

〈圃場準備・定植〉

土壌条件により、定植 2 か月以上前に堆肥と石灰資材をすき込む。元肥は 10a あたり N:P:K=20kg：20kg：20kg を基準として施す。低温に弱いため、定植後は最低気温 13℃以上を維持できるようにトンネル被覆などを行う。晴れた日の日中は高温になるので、早めに開けて換気を図る。最高気温が 35℃以上となる環境下では着果不良や奇形果の発生が多くなるので、日中は気温が 25 ～ 30℃になるように換気する。

〈枝の仕立て方〉

4 本仕立てを基準とし、うね幅 150 ～ 160cm・株間 50 ～ 60cm で 1 条植えとする。初期からの完熟果収穫は草勢低下となるため、3 番果までは未熟果収穫を行い、草勢確保に努める。主枝からの分枝はそれぞれ 2 節程度で摘芯、あるいは放任としても栽培可能。本品種は果実サイズが小さいため、着果負担を考慮した摘果はほとんど必要ない。

栽培上の注意点

追肥は定植 1 か月後から 10 日ぐらいの間隔で施し、とくに開花最盛期には追肥が遅れないようにする。1 回の追肥量は 10a 当たり窒素成分量 1 ～ 2 kgを目安とする。梅雨明け以降は高温と乾燥を避けるため、株元から畝間に敷きワラなどをして地温低下と乾燥防止に努める。

YS 株式会社 大和農園